

ー 急性・重症患者看護専門看護師の役割と活動 ー

東京女子医科大学病院には、2階ICU、CCU、SCU、NICU、MF-ICU、そして救命ICUと多くのケアユニットが存在し、6人の急性・重症患者看護専門看護師が、集中治療室や外来にて活動を行っています。その中で、私が勤務している救命ICUには、呼吸不全、脳出血、心肺停止、交通事故など様々な患者が救急搬送され入室します。また、近年は重症COVID-19患者に加え、院内急変の患者や術後患者も、時折入室するようになりました。

このような患者を看護する急性・重症患者看護専門看護師の役割は、緊急度や重症度の高い患者に対して集中的な看護を提供し、患者本人とその家族の支援、医療スタッフ間の調整などを行い、最善の医療が提供されるように支援を行うことです。

そのため、患者の生命維持、重症化予防、機能回復と日常生活の再構築支援ができるように看護を行っています。また救急搬送される方は、自己決定できない患者が多く、突然の発症のため、代理意思決定者が、治療や処置について決定することがほとんどです。代理意思決定者は、医療者と信頼関係が無い中で、命に関わる代理意思支援を行わなければならないため、丁寧に関係性を構築しながら、タイムリーに支援を行い、患者にとって最善の決定となるよう日々努めています。

2021年度より、急性・重症患者看護専門看護師達で、定期的に倫理的問題への対応について話し合っています。その中では治療方針、家族対応、多職種との調整や連携など、様々な問題を幅広い視点から協議し、解決に向けて取り組んでいます。倫理的問題をはじめ、状態変化時や急変対応、集中治療に関するケアなどで困ったことがありましたら、一緒に考え、取り組ませて頂きたいと思っていますので、ご連絡いただけますと幸いです。